

全国

ぜんこく  
しぎかいじゅんぼう

平成22年  
(2010年) 4月25日

第1758号

毎月3回5の日に発行

定価 1部20円

発行 全国市議会議長会

〒102-0093  
東京都千代田区平河町2-4-2  
代表 TEL 03(3262)5234  
旬報 TEL 03(3262)2309  
発行人 大竹 邦実

http://www.si-gichokai.gr.jp

# 市議会議報



田澤豊彦・東北議長  
会長 (会津若松市)

各県からの要望として▽東北新幹線新青森駅の開業対策及び奥羽本線の利便性向上▽地方経済を支える農畜林業の振興▽国民健康保険制度の改

新年度を迎え、北海道議長会から九州議長会の9議長会が相次いで定期総会を開催する。トップを切つて、東北市議会議長会が4月15日に総会

## 東北議長会が会津若松市で 総会開き要望決定

を開催した。

東北議長会では、新会長に田澤豊彦・会津若松市議会議長を選出するとともに、東北6県の市議会議長会から提出された要望議案を審議、可決した。

善強化——など18議案が提出された。

9議長会は、各総会で可決した議案のうち3件以内を部会議案として、来る5月26日開催の全国市議会議長会の定期総会に提出する。提出された部会議案は総会で審議、可決されたのち、7月の理事会で地方行政委員会など5委員会にそれぞれ付託される。

付託された所管の委員会で、要望書を取りまとめ要望実現に向け、政府・与党など関係方面に実行運動を展開していくこととなる。

### 地域主権改革の推進 に関する本会の対応 (本会の主張部分を抜粋)

(4) 議長に議会費予算執行権を付与すること。  
(5) 閉会中の委員会活動を自由化する。

(1) 地方議会議員の法的な位置付けを明確にするため、地方議会議員の職責・職務を地方自治法上に明文化すること。  
(2) 議長に議会招集権を付与すること。  
(3) 予算修正権の制限を撤廃すること。

## 本会の対応まとめる

地方分権改革・道州制調査特別委員会



左から山口副委員長(八戸市)、五本会長、佐々木委員長、田中企画官、加賀谷副委員長(秋田市)、蒲副委員長(高山市)

## 設置期間最後の会議開催

設置期間満了を間近に控えた本会の地方分権改革・道州制調査特別委員会(委員長 佐々木健五・北九州市議会議長)は4月19日、地域主権改革の動向や課題を整理したのち、今後の本会の対応策について協議した。同委の任期は5月26日開催の第86回定期総会まで。協議の結果、同委は本会が今後取るべき方針として「地域主権改革の推進に関する本会の対応」をまとめた。

本会の対応の中で同委は課題として、鳩山内閣が3月29日に国会へ提出した地域主権推進一括法案には、政府の地方分権改革推進委員会が第3次勧告で示した「義務付け・枠付けの見直し条項892」

のうち、盛り込まれた条項が121にとどまっている点などを指摘。地域主権改革の実現に向け、国と地方の協議の場や地方行政検討会議等で、本会が主張していくべき内容の筋道を示した。左掲。当日は、総務省行政課の田中聖也・行政企画官が地域主権改革の動向を説明した。

#### 【本会の主張】

- 1. 義務付け・枠付けの見直し  
地方自治体の自由度の拡大と条例制定権の拡大を図るため、地方分権改革推進委員会の勧告の基づく見直し条項の残余751条項の見直しを求める。
- 2. 都道府県から基礎自治体への権限移譲  
「補完性・近接性の原理」に基づき、住民に身近な行政を担う基礎自治体への事務・権限・財源の移譲を求めることとし、地方分権改革推進委員会の勧告に基づく384条項の権限移譲の実現を求める。
- 3. 補助金の一括交付金化  
補助金の一括交付金化については、その詳細は未だ明確ではないが、三位一体改革に伴い地方財源が大幅に削減されたようなことがないよう、現在の補助金総額を確保し、各地方自治体が必要な事業の執行ができるよう求める。
- 4. 国の出先機関の見直しについて  
国の出先機関の見直しについては、そのほとんどは都道府県に対するものであるが、地域主権改革の実現のため、その推進を求める。
- 5. 地方議会の権能強化  
「強い議会」の実現を図るため次の事項の実現を求める。  
(1) 地方議会議員の法的な位置付けを明確にするため、地方議会議員の職責・職務を地方自治法上に明文化すること。  
(2) 議長に議会招集権を付与すること。  
(3) 予算修正権の制限を撤廃すること。

# 総会決議案まとめる 病院協が役員会開催



あいさつする三島病院協会長(松江市)

全国自治体病院経営都市議会協議会(会長 三島進・松江市議会議員)は4月8日、東京・都市センター会館で正副会長・監事・相談役会議を開催した。会議では、平成21年度の要望結果を報告するとともに、21年度決算や22年度事業計画などを了承。また、5月13日の総会に提出する決議案を原案のとおり了承した。

自治体病院が厳しい経営を強いられる中、同協議会は、住民が安心して地域医療を受けられるよう、21年度は特に▽地方交付税措置等の充実・強化▽地域勤務医の確保対策▽救急医療体制の充実——などを重点的に要望してきた。

しかし、22年度政府予算では、医師確保や救急医療体制充実のための関係予算が、それぞれ大幅に減額された。診療報酬については、10年ぶりの増額改定となったが、全体の改定率はわずか0・19%増にすぎない。

このため決議案では引き続き、勤務医不足対策、地域医療の再生を最重点要望として、実現に向け強力で運動していくとしている。

## 行事予定

- ▽5月13日 全国市議会議長会基地協議会Ⅱ会計監査(午後2時、全国都市会館)
  - ・正副会長・監事・相談役会(午後3時半、同)
- ▽5月13日 全国自治体病院経営都市議会協議会Ⅱ理事会(午後1時、日本都市センター会館)・総会(午後2時、同)
- ▽5月25日 全国市議会議長会Ⅱ部会長会議(午前11時、全国都市会館)・理事会(午後1時半、同)
- ▽5月26日 全国市議会議長会Ⅱ総会(午前10時半、日比谷公会堂)・正副会長会議(午後4時、同)
- ▽5月26日 全国高速自動車道市議会協議会Ⅱ会計監査(午後4時半、全国都市会館)
- ▽5月27日 全国市議会議長会Ⅱ天皇陛下拝謁(午前10時、皇居豊明殿)
- ▽5月27日 市議会議員共済会Ⅱ理事会(午後1時、砂防会館)・代議員会(午後3時、ベルサール九段)

# 「児童福祉週間」はじまる

## 5月5日「子どもの日」から1週間

厚生労働省では、毎年5月5日の「こどもの日」から11日までの1週間を「児童福祉週間」と定めて、児童福祉の理念の普及・啓発のための各種事業や行事を行っている。

「児童福祉週間」は、昭和22年から、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的に定められた。社会全体が一体となり、各種の啓発事業や

が厚生労働省の正面玄関広場で行う)

▽児童福祉文化賞の授与(社会保障審議会の推薦を受けた児童福祉文化財の中から、特に優れた作品等に授与)

▽全国の各自治体による各種の啓発事業及び行事——などを予定している。

また、今年度の「児童福祉週間」の標語は「地球はね笑顔がつまった 星なんだ」に決定。全国から応募があった7646件の作品の中から最優秀作品に選ばれた。

(財) 東京市政調査会

## 第26回『都市問題』公開講座

### 「コンクリートから人へ」の行方

財団法人東京市政調査会は、「都市問題」公開講座を5月29日下記のとおりに開催しますので、皆様のご参加をお待ちしております。「コンクリートから人へ」をスローガンとする民主党政権が充足し、マニフェストには「子ども手当」「医療・介護の再生」など自治体が第一線で担う施策が並んでいる。一方「コンクリート」の象徴「ハツ場ダム」の建設中止は地元で動揺を生じさせている。また、今年度予算での公共事業費の削減は地方の建設業者の経営圧迫のみならず、雇用問題を深刻化させると危惧されている。

民主党政権が改革の「1丁目1番地」に「地域主権」を掲げる下で「コンクリートから人へ」をどのように実現するのか。その行方を検証していきます。

- ◇基調講演 仙谷 由人 氏 (国家戦略担当大臣)
- ◇パネルディスカッション
  - 池上 岳彦 氏 (立教大学教授)
  - 片山虎之助 氏 (元総務大臣)
  - 鈴木 郁子 氏 (フリーライター)
  - 森 民夫 氏 (新潟県長岡市長、全国市長会会長)
  - 新藤 宗幸 氏 (千葉大学教授) <司会>

- ◆日時: 平成22年5月29日(土) 13:30~16:30
- ◆場所: 日本プレスセンター 10階ホール
- ◆参加費: 無料
- ◆参加申込: 東京市政調査会ホームページから (<http://www.timr.or.jp>)
- ◆申込期限: 平成22年5月25日(火) ※満席となり次第受付終了
- ◆問合せ: 東京市政調査会研究室 TEL: 03-3591-1261

議会人事

議長

▽潟上 千田正英(2・22)

▽焼津 遠藤耕輔(2・22)

▽志布志 上村 環(2・22)

▽新座 森田輝雄(2・23)

▽三豊 近藤久志(2・23)

▽香取 金親孝夫(2・24)

▽瑞浪 日比野 昭(2・24)

▽今治 岡田勝利(2・25)

▽各務原 古田澄信(2・26)

▽糸島 有田継雄(2・26)

▽小松 杉林憲治(3・1)

▽白山 竹田伸弘(3・1)

▽守谷 伯耆田富夫(3・1)

▽小城 中島正之(3・1)

▽南アルプス 久保田松幸(3・2)

▽つくばみらい

▽前橋 松本和男(3・2)

▽榎原 岡田修一(3・2)

▽熊本 竹田きよし(3・2)

▽境港 坂田誠二(3・2)

▽枕崎 松下 克(3・5)

▽尾花沢 依積田義信(3・5)

▽日野 鈴木 忠(3・8)

▽那珂 田原 茂(3・9)

▽豊後高田 須藤 博(3・9)

▽羽島 河野徳久(3・9)

▽富士見 奥田三郎(3・12)

▽八戸 井上恭子(3・17)

▽山口 山口広道(3・18)

▽高萩 鈴木英樹(3・18)

▽山梨 高野隆徳(3・18)

▽入間 高原信道(3・23)

▽飛騨 友山信夫(3・23)

▽宮若 木下忠男(3・23)

▽須坂 寶部 勝(3・25)

▽須本 古谷秀夫(3・26)

▽那須塩原 木下義壽(3・26)

▽那須塩原 君島 一郎(3・29)

▽潟上 佐々木嘉一(2・22)

▽焼津 塚本 大(2・22)

▽志布志 林 勇作(2・22)

▽新座 笠原 進(2・23)

▽三豊 三宅静雄(2・23)

▽香取 高岡正剛(2・24)

▽瑞浪 高岡正剛(2・24)

▽亀岡 足立 亘(2・24)

▽今治 湊 泰孝(2・24)

▽各務原 松岡一誠(2・25)

▽糸島 浅野健司(2・26)

▽大野 吉村 勝(2・26)

▽守谷 宮澤秀樹(3・1)

▽下関 山田清美(3・1)

▽小城 林 真一郎(3・1)

▽白山 平野泰造(3・1)

▽南アルプス 北嶋章光(3・2)

▽つくばみらい 志村裕子(3・2)

▽前橋 堤 實(3・2)

▽榎原 丸山真行(3・2)

▽境港 前口洋一(3・2)

▽岡空研二(3・5)

▽枕崎 上釜いほ(3・5)

▽尾花沢 鈴木敏正(3・8)

▽那珂 石川憲男(3・9)

▽豊後高田 山田秀夫(3・9)

▽日野 池田利恵(3・10)

▽富士見 鈴木光男(3・17)

▽三沢小比類巻雅彦(3・18)

▽高萩 鈴木修二(3・18)

▽高萩 鈴木修二(3・18)

▽富山 小泉茂尋(3・18)

▽山梨 丸山治久(3・19)

▽木更津 橋口武信(3・19)

▽山梨 古屋忠城(3・23)

▽飛騨 森下真次(3・23)

▽小松 飛弾共榮(3・25)

▽宮若 川口 誠(3・25)

▽洲本 山本和彦(3・26)

▽別府 市原隆生(3・26)

▽那須塩原 関谷暢之(3・29)

▽糸島 山口文二(2・26)

▽江別 鈴木正志(4・1)

▽根室 菊地幹夫(4・1)

▽歌志内 渡部一幸(4・1)

▽深川 山岸弘明(4・1)

▽八戸 宮崎光弥(4・1)

▽むつ 須藤徹哉(4・1)

▽つがる 高橋和久(4・1)

▽大船渡 小野勝一郎(4・1)

▽陸前高田 金野周明(4・1)

▽石巻 清水久也(4・1)

▽多賀城 日野 智(4・1)

▽栗原 伊藤敏明(4・1)

▽中川敬一(4・1)

▽秋田 加藤 肇(4・1)

▽横手 浮嶋 伸(4・1)

▽湯沢 山脇久雄(4・1)

▽山形 中村一明(4・1)

▽酒田 平向與志雄(4・1)

▽本宮 押山勝吉(4・1)

▽三条 渡辺一治(4・1)

▽胎内 須貝吉雄(4・1)

▽富山 石田孝雄(4・1)

▽氷見 野 満(4・1)

▽小松 太田博範(4・1)

▽加賀 表 雅裕(4・1)

▽白山 福永慎一(4・1)

▽坂井 五十嵐英之(4・1)

▽長野 駒津善忠(4・1)

▽小諸 佐藤郁夫(4・1)

▽駒ヶ根 下平鉄志(4・1)

▽飯山 丸山一男(4・1)

▽茅野 五味昌彦(4・1)

▽青梅 関塚泰久(4・1)

▽小金井 三井純男(4・1)

▽福生 町田正春(4・1)

▽東久留米 田中輝夫(4・1)

▽あきる野 前野栄作(4・1)

▽西東京 飯島 享(4・1)

▽平塚 上村直健(4・1)

▽甲府 田中一夫(4・1)

▽韮崎 平賀富士夫(4・1)

▽古河 北川憲一(4・1)

▽坂東 木村 稔(4・1)

▽宇都宮 小林一雄(4・1)

▽那須塩原 斉藤 誠(4・1)

▽館林 山岸雅彦(4・1)

▽さいたま 斉藤義雄(4・1)

▽川口 押田善司(4・1)

▽東松山 岡本 功(4・1)

▽春日部 秦野敏雄(4・1)

▽羽生 早川 昭(4・1)

▽入間 都築敏夫(4・1)

▽鳩ヶ谷 鈴木 清(4・1)

▽桶川 島崎 正(4・1)

▽富士見 阿由葉勝(4・1)

▽吉川 戸張新吉(4・1)

▽千葉 田野 護(4・1)

▽旭 堀江通洋(4・1)

▽八千代 向後雄一(4・1)

▽鎌ヶ谷 長井信三(4・1)

▽袖ヶ浦 小泉 誠(4・1)

▽南房総 岡崎好夫(4・1)

▽香取 篠塚正勝(4・1)

▽いすみ 岩瀬 亮(4・1)

▽富士宮 荻澤 正(4・1)

▽磐田 岡本春成(4・1)

▽牧之原 紅林清文(4・1)

▽岡崎 鈴木清治(4・1)

▽津島 山本行洋(4・1)

▽あきる野 中野健一(4・1)

▽常滑 初山敏宏(4・1)

▽蒲郡 宮田滋樹(4・1)

▽新城市 竹内啓人(4・1)

▽知立 成田春夫(4・1)

▽岩倉 大堀誠三郎(4・1)

▽豊明 佐藤政光(4・1)

▽いなべ 種村道夫(4・1)

▽高山 野川政男(4・1)

▽小林 誠(4・1)

▽恵那 澤村憲生(4・1)

▽可児 佐橋勇司(4・1)

▽郡上 池場康晴(4・1)

▽海津 大橋茂一(4・1)

▽岸和田 小堀喜康(4・1)

▽豊中 山本博義(4・1)

▽東大阪 松下幸一(4・1)

▽河内長野 徳田博久(4・1)

▽柏原 山本昌晴(4・1)

▽交野 船戸 巖(4・1)

▽阪南 南 茂義(4・1)

▽舞鶴 藤田卓生(4・1)

▽城陽 齊藤博行(4・1)

▽京丹後 田上 実(4・1)

▽甲賀 森田則久(4・1)

▽尼崎 藤田末廣(4・1)

▽西宮 木田 秀(4・1)

▽宝塚 鷹尾直人(4・1)

▽三木 細川 努(4・1)

▽川西 山田博文(4・1)

▽加東 鈴木昌人(4・1)

▽奈良 竹本尚史(4・1)

▽桜井 西手啓一(4・1)

▽益田 三浦敬司(4・1)

▽井原 初崎 勲(4・1)

お知らせ

本紙5月5日付第1759号は、第1760号と併せ5月15日付第1759・60号として発行します。

# バイオマスタウン 構想を強力に推進

飯田市 (長野県)

古くから「暴れ川」「暴れ天竜」として知られる天竜川が、市域中央部を南北へと流れる飯田市。しかし、天竜川流域は建築用木材の産出地としても知られ、流域で伐採された木材は江戸時代、筏に組まれて天竜川を下り、江戸へと届けられていました。

全市域に占める森林面積が84%と、豊富な森林資源に恵まれた飯田市ですが、「暴れ天竜」を生み出してきた日本有数の急峻な地形が妨げとなり、現在では、あらゆる林業基盤の整備が立ち遅れてしまいました。木材生産基盤の弱体化から、生産コストの削減がままならず、間伐材の搬出も困難。木材価格の低迷、森林所有者の高齢化により、戦後に植林された森林は手入れされずに放置され、優良材生産の障害となっています。

林業振興のためにも、また、豊富な森林資源を無駄にすることなく有効活用するために、木材利用の用途を探るこ



利活用しなければ単なる廃棄物となるだけの間伐材(左上)や樹皮(右上)も木質ペレットの有益な原料。粉碎・乾燥・攪拌を経たのちペレタイザ(下)で木質ペレットへ成形される



## 市政 ニュース

とは飯田市にとって必須な状況であったといえます。「おひさま」と「もり」のエネルギーが育む低炭素な環境文化都市の創造に向けて——平成21年3月31日に飯田市が公表した「環境モデル都市行動計画」中の全体構想の副題です。もともと飯田市は「環境文化都市」を、目指すべき都市像として平成8年に掲げ、早くから太陽エネルギー利用

の促進を図り、特に住宅用太陽光発電システムの普及率は全国トップレベルにあるなど、環境政策の推進に力を注いでいました。「豊かな木材資源は、豊かな木質バイオマス資源」との考えへと移行することは、自然の成り行きであったといえるでしょう。

飯田市は21年11月10日、間

伐材や枝葉、林地残材などを含めた木材資源を「木質バイオマス資源」と位置付けたうえで利活用を図る「バイオマスタウン構想」を公表。特に木質ペレットの有効性に着眼し、ペレットを用いたボイラーやストーブを導入する市民らへの支援策を打ち出し、普及を図ることにしました。

## ペレット利活用の促進

飯田市では木質ペレットによるエネルギー利用の推進を中心とした利活用に向け、ボイラーやストーブ導入に対する

る支援のほか▽化石燃料(重油、灯油)に対し割高となるペレット利用への財政支援▽販路拡大に向けた検討▽中心市街地等で太陽熱と併用しペレット熱を供給する「地域熱供給事業」に向けた検討——などを「バイオマスタウン構想」で掲げています。

現在、飯田市でペレット製造に携わっている団体は「南信バイオマス協同組合」。民間事業者5社が平成16年に設立し、環境問題はもとより、地域産業の活性化や森林の荒廃に対応するため、同協同組合ではペレット製造に取り組んでいます。

木質ペレットの原料は、樹皮や枝葉、間伐材をはじめとする丸太など。原料は、おが粉状になるまで破碎したのち、一定の水分含有量になるまで乾燥させます。乾燥ののちはタンクで攪拌。攪拌工程で生じる摩擦熱により、木材の構成要素の1つであるリグニンが接着剤として作用するため、ペレットの成形に添加物はありません。純粋な木だけで作られます。攪拌工程で軟化した材料は、ペレタイザ(造粒機)で穴から押し出され直径が揃えられます。

ペレット活用の利点は、なんといつでも地球環境に優しいこと。理由は「木材を伐採後に植林する循環を保てば資源の再生が可能」「燃焼時に発生する二酸化炭素は樹木の成長過程に吸収したものの(カーボンニュートラル)」などの特性によりです。利用しなければ廃棄物となってしまう樹皮や枝葉、間伐材などを資源として有効活用するためにも、ペレット利活用の普及が望まれます。【次号へ続く】



完成した木質ペレット